令和７年度第１回山県市総合計画審議会及び
第２２回山県市まち・ひと・しごと創生会議合同会議　議事概要

１．開催概要

会議名	令和７年度第１回山県市総合計画審議会 及び第２２回山県市まち・ひと・しごと創生会議合同会議
開催日時	令和７年７月２５日（金）午前 10 時から
会場	山県市役所　３階　大会議室
出席者	**総合計画審議会委員**　（敬称略） 会　長　竹 内 治 彦　岐阜協立大学経営学部 教授 副会長　宇 野 邦 朗　山県市社会福祉協議会 会長 委　員　福 井 康 雄　市自治会連合会 会長 川田 八重子　市教育委員 寺 町 祥 江　市議会副議長 藤 田 南 司　公募委員 **まち・ひと・しごと創生会議委員** 会　長　竹 内 治 彦　岐阜協立大学経営学部 教授 委　員　福 井 康 雄　市自治会連合会 会長 戸 松 幸 恵　ぎふ農業協同組合 岐阜北ｸﾞﾙｰﾌﾟ統括支店長 青 木 宏 晃　株式会社十六銀行 高富支店長 代理 次長 木 村 麻 理　社会保険労務士 織部 俊太朗　岐阜新聞社 本巣支局長 宇 野 邦 朗　山県市社会福祉協議会 会長 久保田 裕司　副市長 事務局　宇留野 公男　企画財政課長 奥 村 公 敏　企画財政課 主幹 山 口　　覚　企画財政課 課長補佐

	後 藤 佑 太 担当課　　各課長等
傍聴人数	０人
議題	１　開会 ２　委員の委嘱 ３　会長及び副会長の選出（総合計画審議会・創生会議） ４　会長及び副会長あいさつ ５　協議事項 （１）自然と活力調和プラン（第３次山県市総合計画基本構想・前期基本計画及び山県市デジタル田園都市国家構想総合戦略）令和６年度進捗状況・令和７年度取組方針 （２）令和６年度デジタル田園都市国家構想交付金事業等の効果検証 （３）令和７年度新しい地方経済・生活環境創生交付金（第２世代交付金）事業の概要 （４）令和６年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業における効果検証 ６　その他 ７　閉会
配付資料	１　席次表 ２　山県市総合計画審議会委員名簿 ３　山県市まち・ひと・しごと創生会議委員名簿 ４　山県市総合計画審議会条例 ５　山県市まち・ひと・しごと創生会議設置要綱 ６　【資料１】自然と活力調和プラン（第３次山県市総合計画基本構想・前期基本計画及び山県市デジタル田園都市国家構想総合戦略）令和６年度進捗状況・令和７年度取組方針 ７　【資料２】令和６年度デジタル田園都市国家構想交付金事業等の効果検証 ８　【資料３】令和７年度新しい地方経済・生活環境創生交付金

	（第２世代交付金）事業の概要 ９　【資料４】令和６年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業における効果検証

2．議事概要

1　開会

事務局

・各会議の趣旨、合同で行うこととなった経緯説明

2　委員の委嘱

事務局

・前委員の任期満了に伴う一斉改選、委員構成の変更説明
・出席状況報告（３名欠席）、会議の成立要件を満たしている旨報告

3　会長及び副会長の選出（総合計画審議会・創生会議）

事務局

・事務局案を提示、承認
　総合計画審議会
　　会　長：岐阜協立大学経営学部教授 竹内委員
　　副会長：市社会福祉協議会会長 宇野委員
　まち・ひと・しごと創生会議
　　会　長：岐阜協立大学経営学部教授 竹内委員
　　副会長：岐阜女子大学教授 黒見委員
　　副会長：市社会福祉協議会会長 宇野委員

4　会長及び副会長あいさつ

会長

・只今、会長に再再々ぐらいか、指名された。御縁を大切にしたい。
・日本全体で人口が大幅に減っている中で、地域で成果を上げるのは難しい状況。人口減少の中で地域をどう整備するか、現実的なテーマとしてそこが大きなところまできている。
・昨年度総合計画・総合戦略の改定を行った。本日はその進捗状況について確認しながら、しっかりとした、安心安全で活力のある山県市のまちづくりを進めていければ。活発な御意見をよろしくお願いしたい。

副会長

・以前、この会議に長い間出席していた。
・人口減少の中でこのような計画を作るのは非常に難しい。効果もなかなか出な

い。皆さん方の活発な御意見の中で何とか、2040 年に人口 21,000 人を維持するという目標に向かって進んでいけたらと思っている。会長を補佐し、何とか務めたい。

5　協議事項

会長

・本日は、山県市総合計画審議会条例第２条第２号「総合計画の実施状況及び進捗状況に関すること」及び山県市まち・ひと・しごと創生会議設置要綱第２条第２号の規定による総合戦略の推進に関する事項について審議する。
・昨年策定した自然と活力調和プラン（第３次山県市総合計画基本構想・前期基本計画、山県市デジタル田園都市国家構想総合戦略）について、計画初年度である令和６年度の進捗状況と令和７年度の取組方針、デジタル田園都市国家構想交付金事業等の令和６年度の効果・検証、新しい地方経済・生活環境創生交付金（第２世代交付金）事業の令和７年度の概要などについて、委員の皆様から御意見をいただきたい。

（１）自然と活力調和プラン（第３次山県市総合計画基本構想・前期基本計画及び山県市デジタル田園都市国家構想総合戦略）令和６年度進捗状況・令和７年度取組方針

事務局

・【資料１】をもとに令和６年度進捗状況等を説明

会長

・只今の説明で御意見・御質問は。

委員

・（A3 資料）１ページ目の上から２番目、児童相談件数割合、目標値が 46.8%に対して 28.5%で「予定通り進んでいる」というのは、どういう意味か。

子育て支援課長

・対象となっている分母は、要保護対策時児童と支援から抜けた見守りの対象に分けられる。この指標は、全体に対する見守りに移行した割合のこと。要保護対策時児童は、虐待、保護者の介護、など様々なパターンがあり、子育て支援課からの相談関係ネットワークにおいて適切な相談において、見守り、もしくはそれを脱却する状態に進めており、そのお子様に応じた最適な状況で進めているということで、このような回答としたところ。

会長

・他にいかがでしょう。

・総じて生活基盤分野は進んでいるという評価になっていないのだと思う。それなりにお金がかかる。予算も必要で、多分数年間にわたって年次計画なんかがあって、そういうものだと思う。進捗状況の「進んでいる、進んでいない」は、何に対しての評価か。

事務局

・「進捗状況」欄は、令和６年度の目標値に対しての進捗状況について、各担当課が主観的に判断したもの。

会長

・わかりました。令和６年度にここまでやろうという感じだったのがそこまでいってないということ。
・例えば情報配信サービス登録者数、最終目標が 600 人に対して、6 年度目標が 490 人、実績は 449 人で達成できなかった、ということ。
・徐々にというところもあるし、なかなかというところもある。年次計画の中で進めていって、最終的に目標値を達成すれば良いかと思う。
・令和７年度の取組方針について、概略でも触れていただいたほうが良いと思う。

事務局

・「令和７年度の取組方針」欄については、設定した令和７年度の目標値に向かってどう取り組むか、各担当課に尋ねたもの。令和６年度と同じ記載となっている項目もあれば、令和６年度の実績を踏まえ、踏み込んだ内容を記載している項目もある。

会長

・全体に拝見して、令和６年度と令和７年度のもの、比較的近い。最終目標をイメージして、階段を上がってくっていう感じのところをもう少し強く言った方が達成しやすいか。無理のないように、ステップを踏みながら、事業計画進めた方が良いのかと思う。

副会長

・「完了」は、「もう終わった」という意味に取れるか、それとも「次の目標を新たに設ける」のか、または継続してやっていくのか。

事務局

・御指摘の通りで、最終年度を待たず事業が終了し、これ以上行わないものについて「完了」を選択するよう各課に照会したが、「完了」を選択していても継続して行っているのではないかと思われる項目もある。

会長

・年度の数を目標にしているものと、累積の達成を目標としているものが混在している。年度の数を目標としているものは、今年度例えば 100 件を目標として今年度 100 件できたらそれでよくて、その 100 件をずっと続けていこうというもの。累積を目標としているもので、最終目標に近い数まで今年度達成してしまったら、それについて少し数を変えて目標にしていかないと、次年度以降は何もやらなくていいという話になってしまう。そこは精査してみないと。

（２）令和 6 年度デジタル田園都市国家構想交付金事業等の効果検証

事務局

・【資料２】をもとに令和 6 年度デジタル田園都市国家構想交付金事業等の効果検証を説明

会長

・この会議、まち・ひと・しごと創生会議という形になっていて、その会議では山県市が内閣府に申請して、採択されて実施されている事業について評価検証するということでよろしいか。それは令和 6 年度の事業結果と、令和 7 年度申請ができそうな話かどうかコメントするという場だと、資料がそのようにできていない。令和 6 年度と 7 年度についての、予算額と何をするのかと、目標がどうなっているかをしっかり書いていただきたい。いろんな年度が出てきていて、ここで評価すべきは令和 6 年度と 7 年度。基準値として令和 3 年なり、その事業を始めるときの年度が、令和 6 年度、7 年度でどうだったのか、一番肝心な数字がものによって取れないケースもあるが、取れるものについてはしっかりと出して、それを評価して、市民目線で市が無理な企画を立ててやっているのではないと、この会議で承認するという進め方だと思う。
・6～8 ページ辺り、令和 2 年度や令和 3 年度の数値が入っている。

事務局

・御指摘の事業は、「拠点整備タイプ」の事業。グリーンプラザみやま多目的交流拠点施設整備事業では、令和４、5 年度で整備を行い、令和 8 年度までが効果測定期間であり、令和 8 年度まで KPI の達成度を確認していくもの。

会長

・令和 4、5 年度にお金を使ってこの事業をやりました、その結果がこうなって、それが引き続きこういう成果が出ているという説明の資料とのこと。この資料中、違う年度が出てきているものはすべてそういう資料ということか。

事務局

・はい。
・かなり過去の年度の事業費が入っているものについてはそういったことになる。

会長

・グリーンプラザみやま多目的交流拠点施設整備事業では、令和 8 年度までが効果測定期間なら、令和 6 年度の目標値がその後も続くのか。

事務局

・手元に事業計画がないが、令和 7 年度も令和 8 年度もほぼ同じ数字の目標値が掲げられていると思う。

会長

・そういうものとして評価すればよい。令和 6 年度のグリーンプラザみやま観光入込客数（増加分）は、目標値 300 人に対してマイナス 24 ということか。

事務局

・はい。前年対比で、詳しくは 24 ページに掲載しているとおり。事業計画の KPI を「増加分」として設定しているので、順調に毎年増えいく、効果測定期間中累積でこれだけ増えるから、この事業の効果があるということで、当初申請しているもの。

会長

・例えば登山者数が毎年 50 人ずつ増えていくのは、普通考えられない。目標に無理があったか。それに関して、1 つ 1 つ確認していくと時間が足りない。そういう点ですごく分かりにくい。インフラ整備的なものはもう終わっているが、効果測定期間が残っていて、それで目標値はここに書かれている数字。
・「観て・食べて・体験して！自然体験ゾーン」形成に伴う「ハリヨ公園」リニューアル事業では、伊自良地域観光施設への交流人口数が毎年 19 万 9000 人の目標ということか。令和 2 年整備して、その後毎年の実績値がこうだった、というものか。
・私は多分この分野について相当詳しい人だと思うが、ちょっと見た限りで全然評価ができない資料になっている。多分普通の人には全く理解できないと思う。もうちょっと工夫して整理いただいたほうが良いか。
・今年度中に作り直して委員の皆さんにお配りいただくことができないか。令和 6 年、令和 7 年は何を目標としていて、それに対して、目標が達成できたかどうか、ぱっと見てわかる形で。多分 13 ページ以降の詳細版をしっかり読み解けばわかる話だと思うが、時間がかかる。概略版で分かるように。

委員

・私は詳細版の方を読んできた。概略版は飛ばしていた。

会長

・多分詳細版を読めば分かるということ。

事務局

・次年度の資料では分かりやすく整理したい。

会長

・国の交付金を受けているので、適正な検証結果を出していかないといけない。
・基本的には KPI と著しく乖離したものはなく、こういう形で進めていただければという理解でいいのかと思う。

（３）令和７年度新しい地方経済・生活環境創生交付金（第２世代交付金）事業の概要

事務局

・【資料３】令和７年度新しい地方経済・生活環境創生交付金（第２世代交付金）事業の概要を説明

会長

・国の交付金の名前が変わり、令和７年度については６つの事業を行うとのことですが、何かコメントは。

委員

・今年度の新しい事業、保育園留学があり、先日、岐阜新聞に美濃市の保育園留学が成功しつつあるとの記事が載っていた。美濃市は 0、1、2 歳の無償化は進んでいるか。

子育て支援課長

・0、1、2 歳の保育料無償化は希なもの。美濃市は当然行われていない。

委員

・恐らく保育園留学に来られるファミリーの方々は、0、1、2 歳も抱えて３、４、５歳の御兄弟で来られる方がいらっしゃる。恐らく委託事業者さんは美濃市さんも山県市も同じと把握している。地続きで保育園留学を行うと、ひょっとすると 0、1、2 歳の保育料無償化をアピールしたらまた保育園の方が・・・ということもあるかもしれないが、実際今少子化が進んでおり、ここで呼び込めるのであれば、結構アドバンテージが高いのかというふうな見方をしている。美濃市との比較でも結構なので、今後これをどのように進めていくか、もし教えていただけたら。

子育て支援課長

・この事業は、令和 7～9 年度までの交付金を使った事業。1 年目の前半は準備期間、後半は試験的な運用。2 年目から本格的に運用する。美濃市と山県市の大きな違いは、美濃市は私立保育園、山県市は公立保育園を活用して行うこと。本年度は富波保育園を中心として行う。山県市は認知度は高くなってきたが、自然が豊かということ、自然体験保育も岐阜県内でも随一の効果を持ってやっていると自負している。その点山県市としては、一定の人気があるのではないかと思う中で、実は既に問い合わせが殺到しており、前段階として 8 月から 2 組受入れる予定。来年度からは、月 4 組程度受入れたいと思っている。保育園留学は、一時保育の枠組みを使うので、利用者は無償ではなく、有料となる。

委員

・山県市は自然が豊かな部分がいいところではあるが、美濃市は県の森林文化アカデミーmorinos という大きな施設があり、その魅力だけでも申し訳ないですけどかなり美濃は高いので、同じ事業者を使っているが取り合いにならないような形で進んでいただけるといいか。いずれにせよ山県市を選んでいただけるような、公立保育園の魅力向上も図っていただけたらなと思う。

会長

・今、美濃市さんとの競合関係の話があったが、両市ともさほどキャパのある話ではないと思う。潜在的なニーズとしてはそれなりにあるかもしれないから、競争するよりは協働し、両市でその認知度を上げ、それだったらそっちの方がいいですよ、こっちがいいですよっていうような形で誘客してくっていう方が良いのでは。問い合わせが多数とのこと、どの程度か。

子育て支援課長

・行政からと、親子からの問い合わせが 1 日に 3 件ほど入る状態。
・今年は試験的に行うので、本来は 10 月から月 1 組程度を予定していたところ。キャパはそもそも 1 組、どちらかというと人気があったとなっているもの。
・保育園留学というブランドイメージもある。美濃市と山県市、地理的に近く、どちらでも良い方も当然多い。特に山県市においては川を使ったアクティビティを選ばれることが多く、その辺が美濃市との区別をされる方は多いと聞いている。
・今回についても、小学校留学というのが山県市内で民間で行われるものがあり、その中でどうしても保育園に行きたいという声があり、先行的に早めた。
・森の自然、川のイメージを選んで来られる方が多いというふうに感じている。

会長

・愛知県や岐阜市への流出を考えると、双方手を取り合って進んでいただくのが良いかと感じた。
・では、こういったことを確認したということで、次の協議事項へ。

（４）令和６年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業における効果検証

事務局

・令和６年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業における効果検証の概要を説明

会長

・これはこの会議にかけなさい、ということになっているのか。

事務局

・はい。

会長

・コロナ交付金の時も、本当にコロナ対策になっているかということを検証しなさいってことだった。これは議論の余地があるのかどうか分からない。これは報告に近い感じ。
・給付については国からある程度指定された事業ということになっている。推奨メニューも国である程度、人口とか、メニューを示されたということなので、おそらくあまり御意見いただく余地がない。こういう世帯が困っているので、こう考えてほしいとか、特別そういう御意見がない限り、御説明いただいてこういう事業が進んでいるということで了解したということだと思う。
・これまでのところで、副会長から。

副会長

・皆さん方から大体意見も出た。要望も重要な部分で出てきた。何分山県市の将来を占う計画、特に「資料２」は、会長が指摘するように整理して、市民目線で分かるように、他の資料も、この会議だけで終わるのでなく、これだけの事業費、そして統計的な部分も取り入れた資料なので、市民の方々に十分わかるような形で広報してもらいたい。そして完了して終わるものではないと思うので、完了というのはどういう意味か、きちっと説明をお願いできたらと。同時に、完了したら次の目標を作るのが見直しだと思う。
金額よりも、この事業そのものがどうだというようなことも含めて、ぜひ市民の方々に理解していただければ、この計画もさらに磨きがかかってくるのではないかと思った。

6　その他

会長

・その他ということで何かあれば。

委員

・資料 2 は、修正したものを出されるか。

事務局

・例年だとホームページに載せている。本年度は、内部で検討し、資料を差し替えたい。

委員

・この会議の委員に差し替え資料を送るということか。

事務局

・はい。お送りした上で、ホームページにも掲載予定。

委員

・議会にも報告が必要。修正、差し替えもしくは追補しながら、議会には修正したものを配付する。ダイジェスト版が特に分かりにくいので、今日御指摘いただいたことを踏まえて、市民一般の方に分る資料とする。

委員

・議会にも出されるとのことなので、1 点だけ。後ろの方の検証の表についても、概要と目的が書かれているのと書かれてないのがある。概要しか書かれてないのとか、事業成果が「整備した」とか、「できた」で終わってるものと、「これをやったからどうだった」と書かれているものが結構バラバラ。得られた知見とノウハウ、課題、方針も、事業ごとによって違う気がする。この辺も一緒に見ていただけたらと思う。

事務局

・御指摘のとおり、修正してお送りする。

会長

・修正といっても中身の話ではなく、整理の仕方というところ。この会議としては内容について疑義があるのではなく、資料の整理をわかりよく、統一感を出して、まとめていただくということ。
・その他御意見があれば。

委員

・人口減の中で緩やかな人口減を進めていくため、山県市さんの事業として今後注目しておくべきものにはどんなものがあるか。

委員

・重要でとても難解な課題をいただいた。議会でもよく御質問をいただくが、人口減に特効薬はない。極端なことで数字だけで言うのであれば、例えば 500 軒の市営住宅を建てて、低価格であれば人口が増えるかというと、そういうものでないと思う。保育園留学も、保育園で子育て世代が移住するという人口だけにターゲット絞っているのではなく、人が増えれば、お店屋さんの撤退も抑止がかかる。企業誘致しても撤退したらまた衰退しいく。地場産業の振興が絶対大切だと思っている。地域未来牽引企業というのは水栓バルブ業であり、従業員の確保に本当に苦労してらっしゃる。今、外国人労働者に頼っているが、例えば保育園留学で来ていただいて、こんな働き場もあるということで、複合的に、あえて言うなら地場産業の振興という気はするが、それだけでなく、様々な観点から複合的に取り組んで参りたいと思う。多角的な視点から、今後とも御意見いただけたら参考にさせていただいて、施策推進に努めて参りたいと思う。

会長

・他に、意見は。

7　閉会

会長

・無事に本日の審議が終了した。

事務局

・本日は御審議のほど、ありがとうございました。御指摘の件につきましては、速やかに資料を修正して、皆様方に提示さていただきたい。
・今年度臨時で協議事項がなければ、次回の審議会は令和 8 年 7 月頃開催を見込んでいるので御承知を。